



2021年6月22日

各 位

会 社 名 インパクトホールディングス株式会社  
 代 表 者 代表取締役社長 福井 康夫  
 (コード番号：6067 東証マザーズ)  
 問合せ先 代表取締役副社長 寒河江 清人  
 (TEL. 03-5464-8321)

2021年12月期第2四半期累計期間及び通期業績予想の公表に関するお知らせ

当社は、2021年2月12日に公表いたしました「2020年12月期 通期決算短信[日本基準] (連結)」において、未定としておりました2021年12月期 (2021年1月1日～2021年12月31日) の連結業績予想を下記の通りお知らせいたします。

記

1. 業績予想について

(1) 2021年12月期 (連結) 第2四半期累計期間 (2021年1月1日～2021年6月30日) 連結業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前期実績(A)	百万円 4,596	百万円 315	百万円 142	百万円 67	円銭 10.86
今回発表予想(B)	5,700	600	550	350	53.72
増減額(B-A)	1,104	285	408	283	—
増減率(%)	24.0	90.5	287.1	422.2	—

(2) 2021年12月期 (連結) 通期 (2021年1月1日～2021年12月31日) 連結業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A)	百万円 11,074	百万円 1,029	百万円 28	百万円 -187	円銭 -30.08
今回発表予想(B)	13,000	1,600	1,450	930	142.73
増減額(B-A)	1,926	571	1,422	1,117	—
増減率(%)	17.4	55.5	—	—	—

2. 公表の理由

2021年12月期通期連結業績予想につきましては、2020年12月期決算短信の開示時点において、新型コロナウイルス感染拡大による当社グループの事業活動への影響を合理的に見積もることが困難であったこともあり開示していませんでした。

しかしながら、第2四半期終盤に差し掛かり、感染拡大の懸念は今後も継続するものの、新型コロナウイルスの当社グループにおける国内外の事業への影響について、新型コロナウイルスの感染拡大が2021年12月期中は収束しないという前提のもと、ある程度合理的に見積もることが可能となったため、今回、2021年12月期第2四半期累計期間及び連結業績予想を開示することといたしました。

増収増益の要因としては、HRソリューション事業においては、新型コロナウイルス感染拡大を懸念した店頭販売員の配置を自粛する動きがあり、試飲試食等の推奨販売サービスは引き続き厳しい状況が続く反面、コロナワクチン接種会場への人材派遣業務の受注が拡大し、コールセンター事業やデバック事業も業績が順調に推移すると見込んでおり、加えて、IoTソリューション事業においても、小型デジタルサイネージの高付加価値商材であるPISTA（フィールド・トラッキング・ソリューション）のローンチによりオンライン化されたサイネージのコンテンツの自動更新が可能となり、従来の筐体販売だけでなく、オンライン利用料やASPサービス利用料などのストック収益の増加、飲食チェーン向けDX推進の一環として開始したオンラインのタッチパネル式デジタルサイネージであるテーブルトップオーダー端末の受注の拡大を見込んでいるためです。

以 上